

アспенで学んできたもの



これまで大切に継続してきたアспен市との交流事業は占冠村だから体験できる特別なものです。海外の生活や文化に触れるだけではなく、言葉の壁をどう乗り越えコミュニケーションをとるか。生徒たちが自ら考え挑戦する環境がここにあります。

アспенでの体験を振り返って

トナム学校 グルンゲ ソニカ

私は一月七日から十七日までの間、アメリカのコロラド州にあるアспенというところへ、私と占冠中学校の生徒四名、先生方三名の合計八名で行きました。アспенでの生活では、ホストファミリーだけではなく、いろいろな人と話すことが目標でした。

アспенへの道のりは大変で、往復で合計六回も飛行機に乗りました。新千歳空港から成田空港までおよそ二時間、成田空港からアメリカの

デンバー空港まで十二時間、デンバー空港からアспен空港まで三十分と長旅でした。アспенへ着いたとき、時差と高地に位置していることから、今思うと少し疲れが残っていたと思います。

現地へ着いたら、ホストファミリーが出迎えてくれました。皆でウェルカムパーティを企画してくれ、とても嬉しかったです。私は十日間、サバンナさんの家に滞在することになりました。彼女の家族は私の家族と似ていて、面白くてよく笑う家族でした。アспенでの生活すべてが思い出ですが、その中でも、ホストファミリーであるサバ

ンナさんのお母さんがつくった料理を家族皆で楽しく食べた時間が一番の思い出でした。

アспенに滞在している期間中に、いろいろなことを体験しました。その中で気づいた日本との違いで印象に残っていることは三つあります。

一つめは、車の通行が逆であり、車の速度が日本よりも速かったことです。

二つめは、自家用車やスクーラバスに乗って、生徒が通学していることです。各家庭から学校までの距離が遠い人において、通学にかかる時間が長く、大変だと思いました。三つめは、ロボットを使っ

て授業をする勉強があることです。数学など、アспенの学校で授業をいろいろと体験し、「楽しい活動」がたくさんありました。アспенでの経験は私にとって最高の思い出になりました。本当にあったという間で日本に帰りたくない気持ちでしたが、無事に皆で帰国できてよかったです。

アスペンの思い出

占冠中学校 金森 夕夢

私のアспенで一番に残っていることは、スキーです。アспенのスキー場は四つあって、アスペンマウンテン、アスペンハイランズ、バタミルルク、スノーマスです。この中で私はアスペンマウンテンとスノーマスに行きました。土曜日にスノーマス、日曜日にアスペンマウンテン、月曜日にまたスノーマスに行きました。

土曜日のスノーマスは私と、朱那、アンブラー、アンブラーのお母さん、妃陽、キラ、ソニカ、サバンナ、ミノと行きました。

日曜日のアスペンマウンテンは私と、ミノと、そのお父さん、お母さんが午前中滑り、午後からお父さんが抜けて、



堅成のグループと一緒に滑りました。

月曜日のスノーマスは学校のグループで滑りました。

この三日間の中で一番楽しかったのは、月曜日のスノーマスです。グループは三つに分かれていて私は中級者グループに入りました。カマラ、ミノ、ミノのお母さん、松尾先生、アンブラーと一緒に滑りました。このグループは主に林間コースやモーグルコースに行きました。とても楽しかったのは、林間コースです。でも、トナムの森の迷路のような緩斜面ではなく、急斜面でたくさんのでこぼこがあったスリル満点で面白かったです。

私がこのアスペン交換留学で学んだ事は、言葉が通じない人でもスポーツをすれば仲良くなれるということです。私は、スポーツがとても苦手ですが、スポーツでは仲良くできず、スポーツと一緒に協力して行えば下手でも仲良くなれるので初対面の人とはスポーツをしようと思います。皆さん、私たちを一生に一度の体験をさせてくれて本当にありがとうございます。

アスペンの思い出

占冠中学校 赤石 妃陽

私がアスペンで過ごして感じたことは、キラやキラの家族、アスペンの人達がとても親切だということです。私は英語が苦手で話しかけられても何も聞き取れなかったり、なんて返せば良いか分からなかったりして会話が全然続きませんでした。それでも諦めずに会話を続けようとしてくれました。翻訳機を使って話してくれたり、家や出かけ先で沢山話しかけてくれたり、おかげで私は寂しい思いをせずにアスペンで沢山の楽しい思い出を作ることができました。とても嬉しかったです。

私がアスペンで思い出に残っていることは、色々な所に連れて行ってもらったことです。土曜日はスノーマスにスキーをするために連れて行ってくれました。私は、あまり早く滑れないし、難しいコースは滑れなかったけど、簡単なコースに沢山行ってくれたので、楽しむことができました。日曜日は買い物に三件ぐらい、ショッピングモールに連れて行ってくれました。おかげで家族のお土産を買うことができたし、日本にはない

アメリカならではの物を見ることができたので楽しかったし、車の中からアスペンの美しい景色を見ることができました。その他にも花火を見せに、三十分かけて町の方に連れていってくれたり、放課後、疲れているのに、キラのお父さんが働いている病院に連れていって、案内してくれたりしたこともありました。

キラのお父さんもお母さんも疲れているのに私が楽しい思い出を作れるように毎日、車を運転してくれまし、キラはいつも私のことを気遣ってくれたので、どんなことも楽しむことができたし、アスペンで色々なことを学ぶことが出来ました。

皆さん本当にありがとうございました。

アスペン

占冠中学校 渡辺 堅成

私がアスペンに行って思ったことは、空気がきれいだったことです。アスペンに行く前は、鼻水がひどかったのですがアスペンに近づくにつれて治っていったからです。アスペンで楽しかったことは、スキーです。ボーディとプロディは普段からバックカントリーをしているので、毎

日とても急な深雪に行きました。その中でも一番思い出に残っていることが、土曜日にハイランズの山を歩いて登ったことです。バックカントリコースを滑るには結構な距離を登らなくてはいけなく、自分では中腹で疲れてしまい下山することにしました。それでもボーディとプロディは毎週末、頂上まで登っているらしく「すごい」と思いました。

日曜日は、アスペンマウンテンに行き、ボーディとプロディのスキーチームに入り、バックカントリーをしました。もうひとつの思い出は、スノーマスのジェットコースターに乗ったことです。人生で初めてジェットコースターに乗りました。ノーブレーキで乗りました。遠心力で吹っ飛ばされそうでした。その後にチューブで遊んだ時お互いのチューブをぶつけ合いそこで仲を深めることができました。営業が終わるまで遊んでいた。すごく楽しかったです。

サヨナラパーティーの日は、一日ボーディ達のクラスで同じ授業を受けました。一時間目は、数学で頭を使う問題を解きました。二時間目は、アーチェリーを行いました。初めての体験だったので、すごく楽しかったです。その後は、理科の授業を受け

ました。理科では重りの実験をしました。

サヨナラパーティーは、スノーマスで行いました。スケートやボールプールで遊んだり、卓球をしたりしました。ご飯もおいしかったです。今回アスペンに行って、すごく楽しかったです。今度は自分でお金を貯めて行きたいと思っています。

アスペン

占冠中学校 鈴木 朱那

私は、アスペンでたくさんの事を経験しました。スキーにスケート、スノーシュー。とても楽しかったです。

私のホストファミリーは、私に優しく接してくれました。みんなが英語で話していて、理解できるかどうか不安でしたが、なんとか理解することができて嬉しかったです。

私が一番楽しいと感じたのは、スキーです。スキーは、いろいろなコースがあつて、どこにいるのか分からなくなりましたが、みんなが優しく教えてくれました。レベルはBlue and greenに行きました。だいたいコースが緩やかなところで、とても楽しかったです。しかし、私は腕を負傷

していて、転んではいけないので、いつも急な所に行くことが、なんとか転ばずにスキーをすることができました。

毎日、学校から帰ってきたら、家族でゲームをして遊びました。主に、DINOやプロックスなどをしました。楽しかったです。みんなが必死になってやっていたので、顔が面白かったです。日本での私の家では、アスペンにあるようなボードゲームをしないのでやりたいと思いました。

アスペンの学校はとても広く、迷子になりそうでした。みんな土足で入って行って、授業中にお菓子を食べていて、いいなーと思いました。学校には電子黒板があつて、私たちの学校にあるものとは全然違うものでした。

私が一つ後悔したのは、ショッピングの時です。手に取った物は買っておけば良かったと思います。全然お土産を買ってなくて、ずっと焦っていました。

アスペンのみんなとお別れた時は、とても悲しかったけれど、笑顔でお別れする事ができました。

このような機会を作ってくださった皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。また行きたいです。

姉妹都市交流事業に参加して

トマム学校 関山 直樹

占冠村の伝統ある姉妹都市交流事業に、引率の立場として参加できたことは自分にとっても大きな経験だった。十月にアスペンからの引率団を迎えて、共に交流した人たちと、こうして再会できることは、またとない貴重な機会であり、身近であたたかい国際交流であると思う。

出発前にあつた引率者としての不安はすぐに吹き飛んだ。交流が始まってからの生徒の表情は終始よかった。数多くのアクティビティをこなした後に、「疲れた。」よりも「楽しかった。またやってみたい。」など、ポジティブな言葉が飛び交った。ポジティブな思考や言葉は英語の運用にもいい形となって表れた。相手の考えや気持ちを一生懸命聞き取ろうとする心がけが、生徒の英語に対する壁を取り除いてくれた気がした。習った英語を使い、習っていない英語は調べることを続けると、短い期間の中でも、リスニングや発音に慣れてきて、生徒の自信に満ちた表情

を見る場面が増えてきた。海外の文化や生活を経験することだけでなく、語学力にもいい影響が与えられているところを間近で見て、この事業がいかに有意義で貴重な時間であるかを実感した。

今回、占冠村に暮らす子どもたちにとって、アメリカで感じたスケールの大きさは、刺激的で突き刺さるものがあっただろう。たくさんの生徒が学びをともにしている状況を身近に感じ、実際に体験できたことは、自分が今住んでいる占冠村の良さを改めて確認したり、違う環境にいる人たちの良さも知ったりすることができたと思う。

この姉妹都市交流事業は、占冠村にいるからこそ体験できるものである。この経験をきっかけに、新しいことに挑戦する気持ちを持ち続けてほしい。

Good relationship

占冠中学校 松尾 優

このアスペン交換留学を迎えるにあたって、初めは、とても不安でした。体調や時差の問題、言葉が通じない等のたくさんの不安を抱えて、アスペンへと出発しました。ただ、そんな不安も一瞬に

でよりも一段と成長したように思えます。

占冠とアスペンの交換留学が始まって、二十八年が経ちます。これは、本当に素晴らしいことだといえます。交換留学に行く占冠とアスペンの生徒にとっては一生に一度の

素敵な経験です。交換留学事業を支えてくれている占冠村、アスペンの方々のお陰で、この事業が続いていることは間違いありません。今後もこの交換留学が未永く続くことを願っています。

